

広島大学

塚村 遼也・谷 卓思

【作品名】

サンカヨウ

一輪の花から忘れられた日本人の雨の記憶が開く



1 雨の日に咲く一輪の花(サステナブルな住まいを実現するために採用する自然素材)

サンカヨウ

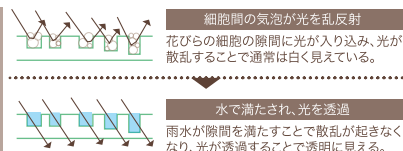


雨に濡れると透明になるお花。透明感のある花びらがなんとも儚く、幻想的。

特徴

- ・別名「スケルトンフラワー」
- ・メギ科サンカヨウ属でやや湿った場所に育つ
- ・高さ30cm〜70cm
- ・茎の先に直径2cmの白い花びらをつける
- ・雨に濡れると花びらが透明になる

原理



2 建築にサンカヨウの花を咲かせる(すりガラスの反転)

すりガラス

一般的な使い方は加工面を室内側にして用いる。

特徴

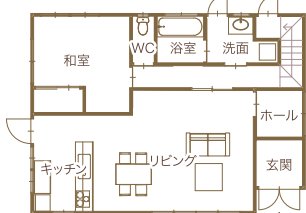
- ・【サンドブラスト加工】ガラスの表面を金剛砂で研磨し、ガラスの透明度を下けている。
- ・【乳白色のガラス】乳白色のガラスに光が入り込み、柔らかな空間を創造する。
- ・【透明度の変化】すり加工された面が水に濡れると透明度がアップする。

サンカヨウを咲かせる使い方は加工面を室外側にして用いる。

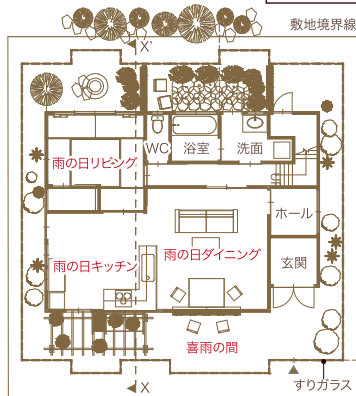


平面図

リフォーム前

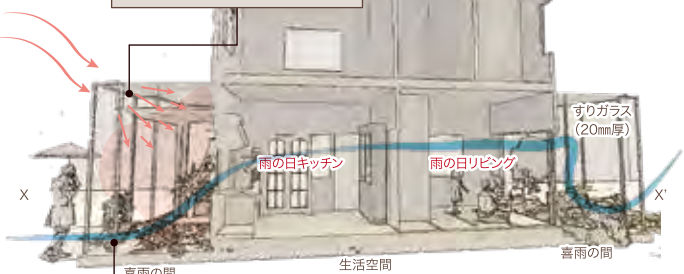


リフォーム後



断面図

X-X'

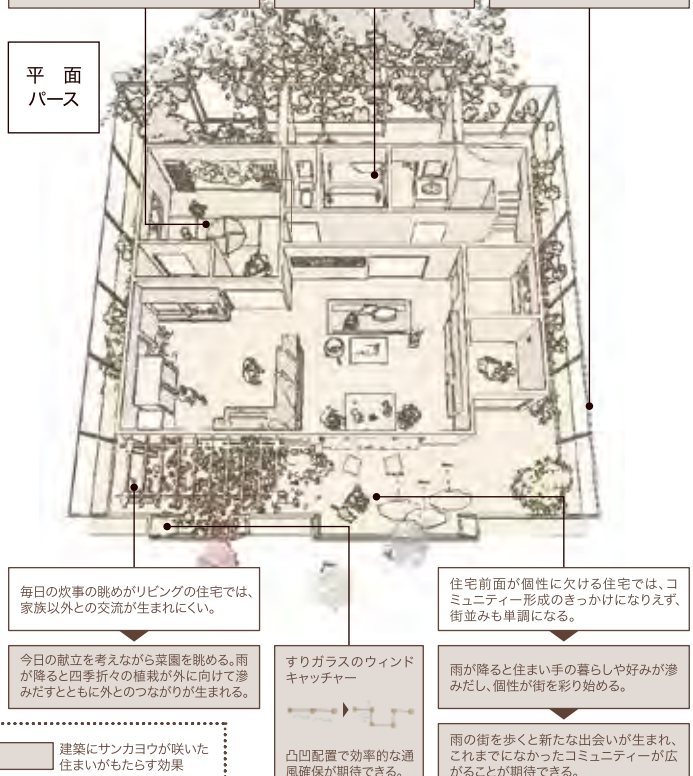


すりガラスを地面から500mm上げることで地窓をデザイン。下からの風が各空間で温められ、「喜雨の間」→生活空間→喜雨の間への通風を確保する。

限界ニュータウンの抱える課題

建築にサンカヨウが咲いた住まいがもたらす効果

平面パース



設計コンセプト

かつての日本人は、雨を「天からのもらい水」として大切に、雨の日の趣を感じていた。絶妙な雨の違いを感じ取り、雨に付けてきた情緒ある名前は400に上る。しかし日本人はいつしか雨を厄介者と感じるようになってしまった。現代日本の雨降る街には、傘の下、うつむきがちに歩く人で溢れている。雨に趣を抱く一つの文化が失われてしまったのだ。そんな雨に濡れて美しく咲く花がある。その花の名前は「サンカヨウ」。私たちは、雨に濡れたサンカヨウの美しさこそが日本人の忘れていた「雨を美しく感じる文化」をもう一度蘇らせる力があると考えた。そこで、サンカヨウを自然素材とした暮らしを提案し、広島の限界ニュータウンを再生するために住宅にサンカヨウを咲かせる。そのために使用したのが「すりガラス」である。すりガラスは通常、

凹凸の面を内側にして使う。しかしそれを反転させて使うことで、雨に濡れて美しく透き通るサンカヨウを再現した。雨に濡れたすりガラスがじんわりと透明度を上げ、内と外をつなぐ。住宅に咲くサンカヨウはこれまで限界ニュータウンが抱えていたコミュニティー問題をはじめ、雨の街の景観や住宅の居住性確保にも効果を発揮することが期待される。サンカヨウに囲まれた住宅や街で暮らしながら、日本人が忘れていた雨への記憶が開くエネルギー住宅とする。

審査委員講評

雨に濡れると白い花びらが透明になる花「サンカヨウ」。普段は水に濡れるとその半透明の機能を失う「すりガラス」を逆に雨に晒し透過させることでプラスの景色をつくり出しています。街の景色もリノベーションされた住宅の内部からも雨が降るたびに鮮やかな風景が現れる。普段ネガティブに捉えがちな雨やすりガラスの透過を見事に転じてみせた提案です。